

「植林訪中」報告

☆4月17日～18日
(ハルビン市・長春市編)



一行16名。17日、仙台-長春便が不通のため新潟から南方航空でハルビンに。これまで以上に出入国検査が厳しい感じ。ハルビンはロシアと国境を接する黒龍江省の省都。異常気象のためか春まだ遠い状況で朝夕は相当冷え込んだ。松花江はまだ凍結しており、大河の氷の間から浮き上がった魚(コイ)を網で取る姿も(写真上)。ロシア観光客が多く、ロシア土産店も目立つ。1920年代の欧米や日本の建物も多く、中央大街は東方のモスクワとも呼ばれ建築ファンには超お勧め。20日にも宿泊した天植大酒店はこの大街にあり、早朝、夜と街並み散歩を楽しめた(下)。

名所の聖ソフィア大聖堂はビザンチン様式の代表的建物。今は建築美術館として結婚写真のメッカとともに多くの人でにぎわっている。ハトの群れが集まっていたが、鳥インフルの心配はないような市民風景(中)だった。

翌18日は高速鉄道(下左)で吉林省の省都・長春市へ。吉林省対外友好協会の歓迎宴では王志偉副会長が「長い間の植林プロジェクトと今日の来訪に感謝する。中日間は天気のように今は寒いですが春は近い、子孫のためにも有意義な仕事にしていきたい」とあいさつ。江幡県協会長も「今年で11年目。諸事情で交流を中断するわけにはいかない。異常気象だが穀物や樹木が順調に生育するよう祈るとともに、吉林省と宮城県の交流も将来にわたり続けていきましょう」と応えた。歓談後、記念品を贈呈、中国側から「清明上河図」一部のレプリカが贈呈された(下右)。⇒



⇒ この後、車窓から旧関東軍司令部(共産党省委員会)など満州国の旧跡を残している官庁街など市内を観光。そして長春大学日本語学科学生との交流会(上)へ。学生数1万2千人だが日本語は213人。この日は代表60名程とグループに分かれて懇談。私のグループは女子6、男子1。就職先は旅行関係が多いと聞いたが、日本語を学ぶ男子が少なくなっている事に関係悪化が影響しているのかも。(増刊106号へ続く)

町制施行50周年記念式典行われる

5月3日午前、富谷スポーツセンターで記念式典が行われ「5万人到達 とみや新ステージ」を祝いました。若生町長は「人口4982人から始まり、他地域との合併なく、今日を迎えた。3年後の市制移行を目指したい」とあいさつ。今後の目指すべき“市のビジョン”を、当会としても語り合っていきたいと思えます。

☆☆☆ 四川省雅安市・廬山県大地震への義援金、ご協力ありがとうございました。富谷日中有志として、(公社)日本中国友好協会へ2万円を5月末に振り込みました☆☆☆

ひろば
「広場」

☆募集☆

毎月25日
が投稿の
締め切りです。

話題&
情報

ご案内 「富谷日中・第18回定期総会」

6月15日(土)午後2時から。富ヶ丘公民館1Fで。懇親会500円。市制移行に向けた活動についても検討いたします。

読書 「大中華圏」(寺島実郎著 NHK出版 1680円)

グローバルな視点でTV等の活躍で知られる評論家。ネット型社会、海外での華人の活躍など、現代中国が共産主義にかわるべき新たな統合原理“大中華圏”を考える。そして対応すべき日本への警鐘は鋭い。昨今の安っぽいナショナリズムを斬り、日中の新たな関係構築への呼びかけは、時宜を得ていると感じた。